

はす結果の如何なるものがあるかについては今更、管々しい説明をするまでもあるまい。

昔から婦人ふものは家中におつて一家の切盛りをして行くものとなつてゐる。それが近世資本主義の世の中となるに及んで同じく女であつても我輩達の家に生れ又は嫁いたものにあつては必ずしもそういふ譯には行かなくなつた。何となれば主人の給料のみを以てしては一家の家計を支へて行く事が困難になつたからである。之が爲めに家の中の居るべかりし婦人も若干の勞銀を稼いで一家々計の手助けをなすべく家を出て工場に勤かねばならなくなつたのである。惟ふに婦人ふものが近代に至つて家内経済の切盛りに従事する夫はでなく、右のやうに生産經濟に直接の關係を持つやうになつた

門戸は二つある。その一は即ち工場に於ける大工業で他は即ち家庭工業である。家内工業ふのは昔の工場組織で主人及家族に依つて工場が組織され假令雇人を使ふにしても殆んど家族同様に待遇されるのであつた。然るにこの家内工業は漸次その範囲と形態に變化を來して今日の處では最早多くの婦人を収容するに足らなくなつて之等のプロレタリアの婦人達は皆工場労働の仲間入をして所謂女工として食を求めるが、然るにこの家内工業に從事する時代ならば妻として又母としての役目を全うする事も比較的容易であつたが、工場工業に働く事なれば全くこの家庭から離れ夫なり子供なりご別れ／＼になつて働くのだから、從來の家庭生活といふものは根抵から壊されるに至る事は當然の順序である。殊に夫婦が共に